

一番は関わってくれる
子どもたちを大切にしたい

まずは間口を広げて

現在保存会の八代目会長である鍋島さんは、就任当時、仲町の保存会や、祭りに関わる人が減ってきていることを危惧していたそうです。

「伝統をつないでいくためには、まずは関わってもらえる雰囲気づくり、環境づくりを行います。」「環境づくりを行います。」「環境づくりを行います。」

「伝統をつないでいくためには、まずは関わってもらえる雰囲気づくり、環境づくりを行います。」

「伝統をつないでいくためには、まずは関わってもらえる雰囲気づくり、環境づくりを行います。」

「伝統をつないでいくためには、まずは関わってもらえる雰囲気づくり、環境づくりを行います。」



仲町囃子保存会 会長
鍋島 康弘さん

「コロナ禍で、祭りに関わる伝統文化の継承が危ぶまれる中、伝統を守る役目を担う囃子保存会の方はどのように紡がれているのか、保存会の「今」を鍋島さんにお話を伺いました。」

「コロナ禍を機に練習から離れてしまった子どももやそのご家族の中には、そこで絆が切れてしまいがちになってしまった子たちがいるのも事実です。」

「一度練習から離れてしまつとなかなか戻ってくるのが難しい。だからこそ、関わってもらえる雰囲気づくり、環境づくりが大切だと思います。」



再スタートを切る保存会、そして地域

しかし希望もあります。「コロナ前にも増して仲町に新しく転入してきた方や、昔仲町の祭りに関わってくれた方のお子さんの多くが今、お囃子の練習に来てくれています。」と嬉しそうに語る鍋島さん。まさに保存会が行ってきた「間口を広げること、そして「関わりやすい雰囲気づくり」が、結果として祭りに関わる人、そして地域に関わる人のつながりを増やしているのだと思います。

「保存会としても地域としても再スタートという気持ちで、これからの担う子どもたちを見守りながら伝承をつないでいきたい。」インタビュー中に入ってきた子どもに「この子が『これから』です。」と笑いながら語った鍋島さんの姿に「まつり」と地域の「これから」の在り方が見えた気がします。

本庄まつり



神事としてのお祭りも守りつつ、 しっかりと伝統を継承していきたい

一今年度の当番町である照若町自治会副会長で、お囃子等の伝統を伝えている照青会の会長でもある石井さんへ開催に向けての意気込みを伺いました。

まずは祭りに携わる人間として、「神事」であるという点をおろそかにせず、守らなければいけない部分はしっかりと大事にしていきたいと考えています。

実は照若町では、戦後の混乱等で昭和40年代前後に一度途絶えてしまった「しずかもの」というお囃子を現在の祭囃子保存会の会長の方が中心となって、コロナ前からなんとか復活させようと中高生を中心に教えていたところでした。

そこに来て3年間空白の期間があると、また練習も一からやり直しになってしまいます。まさに、コロナ禍の影響は大きかったと思います。しっかりと教え、伝えていかないと、またこの伝統は途絶えてしまう、それを一番危惧しているところです。

今回3年ぶりの開催ということで、改めて途絶えていた伝承を再開できたことは、大きな意味があったと考えています。

ぜひともコロナ禍に打ち勝って、お祭りを盛大に行って、子どもたちに伝承していきたいという気持ちです。



令和4年度本庄まつり当番町
照若町自治会副会長
石井 誠さん

